

「東京大学釜石カレッジ」連続公開講座

1. 概要

東京大学釜石カレッジは平成 24 年 10 月に東京大学と釜石市の間に締結された「東京大学釜石カレッジ開設に関する覚書」に基づき、釜石市のまちづくりの推進と産業等の復興を支える新たな人材育成の場として開設されました。

本活動の一環として、平成 24 年 11 月から 3 度にわたり「三陸経済の復興に向けた連続公開講座」が釜石市において開催されました。三陸地域の経済の復興・発展に役立つと期待されるテーマについて、司会者や聴衆を交えて活発な議論が行われました。

2. 内容

● 第 1 回「地域再生の現場から」

開催日時：平成 24 年 11 月 22 日（木）

司会：新宅純二郎（東京大学経済学部教授、ものづくり経営センター）

講師：斉藤俊幸 氏（イング総合計画、地域再生マネジャー）

（講師紹介）地域再生マネージャー（ふるさと財団）、地域活性化伝道師（内閣官房）、地域力創造アドバイザー（総務省）、地域経営の達人（総務省）、熊本県荒尾市地域再生事業で地域づくり総務大臣表彰受賞、食の 6 次産業化プロデューサーWG 有識者（内閣府）、中心市街地商業等活性化支援有識者検討会委員（経済産業省）

（概要）地域再生法の目的の中で、地域再生は知恵と工夫のアイデア合戦、地域間競争であると書かれている。“地域力”自体が力比べである。「創発」を起こすと強い地域ができる。強い地域組織ができる。地域がギクシャクし、それを修正できるとそれが「怪我の功名」だ。誰もいないところで勝つまでじゃんけんして、それに勝つとまさしく「瓢箪から駒」である。



講座に先立ち、若崎副市長にご挨拶いただきました。



斉藤先生による講演の様子。地域おこしによる「創発」の重要性を解説されました。



新宅教授による「経営学における創発戦略」の解説。



講座は盛況で、質疑応答も積極的に行われました。

● 第2回 「日本の小売業と三陸地域」

開催日時：平成 24 年 12 月 6 日（木）

司会：国友直人（東京大学経済学部学部長）

講師：千野和利 氏（株式会社阪食社長、新日本スーパーマーケット協会理事）

（講師紹介）株式会社阪食の代表取締役社長。阪食は「高質食品専門館」をキーワードに新たな店舗展開を行い、ホスピタリティあふれるサービスと安心・安全な食材を提供し、お客様にとっての「地域一番店」「信頼できるお店」つまりは、京阪神のあらゆる地域において「なくてはならないスーパーマーケット」を目指している。

（概要）日本の小売業における各種の業態と最近の動向を鳥瞰し、特に全国展開しているスーパーマーケットの役割と商品開発などについて説明する。さらに三陸地域の特性を生かす形での全国規模で通用する商品開発の可能性についても考察する。



国友教授による開講の挨拶。



千野社長による講演の様子。店舗のコンセプトづくりから、地域の特産品の生かし方まで話題は多岐にわたりました。



講演終了後は食事会が行われ、三陸地域の特産物の流通について活発な議論が交わされました。

● 第3回「環境・エネルギー問題の将来」

開催日時：平成 25 年 1 月 17 日（木）

司会：石見徹（東京大学経済学部教授）

講師：大橋弘（東京大学経済学部教授・公共政策大学院教授）

（概要）従来省エネルギー、新エネルギー分野において、エネルギーの安定供給を基軸としたエネルギー効率の改善、新エネルギーの導入促進を目的とするエネルギー政策が講じられてきた。震災後のエネルギー制約や固定価格買取制度等の各種の省エネルギー・新エネルギー政策を背景に、我が国においても、「新たなエネルギー産業」にとっての国内市場が拡大することが見込まれる。エネルギー政策を追求するとともに、産業や雇用への裨益という視点に立って、新たなエネルギー産業の育成という観点からの政策を展開していく必要性に対して、本講演では経済学的な観点から幾つかの論点を取りあげる。



石見教授による講師の紹介。



大橋教授による講演の様子。



熱心に聞き入る参加者の方々。



質疑応答も活発に行われました。